

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表・児発)

公表:令和2年 3月 1日

事業所名 スタジオそら鷺沼

保護者数(児童数)60名

回収数 45名 割合 70%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	35	9	1	0	運動の部屋がもう少し広いと良い。十分確保されている。集中し易い環境だと感じる。	活動内容を工夫する。年長就学前準備クラスでは戸外での活動を設け、十分に身体を動かせるようにする。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	36	7	0	2	担当の先生が毎回同じ気がする。まんべんなく指導を受けたい。担当の先生を事前に教えて欲しい。専門性については判断しかねる。子どもの視線や細かい部分まで見られている。職員同士の連携が取れている。	担当を割り振る際には同じ職員が続かないよう配慮する。スタジオ内でのミーティングや研修を通して療育の質を高めていけるよう努力する。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	42	1	0	2	視覚的支援で分かりやすい。部屋に入ってからの流れが分かりやすい。情報の伝達がメールで有難い。	視覚ツール(絵カード)や玄関に置いてある足型等、子どもが目にする物は分かりやすく、清潔であるように配慮する。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっているか。	42	2	1	0	カビや下水の匂いが気になる。運動用具が見えており、子どもが欲しがっていることがある。綺麗で清潔である。	本社に相談し、臭い改善に努める。運動用具の棚を整理し、刺激を与えないように配慮する。
適切な 支援の内容	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	41	3	0	1	保護者の意見を聞き、理解をして作成されている。職員の視点からも目標を立ててくれる。発達状況を聞いてくれる。成長した細かな点に気付いてもらえる。	引き続き、子どもの様子の変化や成長に気づき、適切な支援計画の作成に努めていく。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	39	2	0	4	ガイドラインの詳細が分からない。	質問があった際には答えられるよう、職員がきちんとガイドラインについて把握しておく。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	43	0	0	2	計画が具体化され、スモールステップで支援している。支援計画の見直しをしている。運動が多く、勉強関係の取り組みが少ない気がする。	引き続き、支援計画に沿った支援を行っていく。
	⑧ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	39	0	0	6	同じプログラムが多い気がする。担当の先生が毎回違う為、固定化はあてないが一つの課題に集中して取り組めない事が残念である。	内容が固定化されないよう、ミーティングや記録で情報を共有していく。新しい遊びを複数同時に始めるのではなく、子どもが理解し覚えるまで繰り返し行っていく。
	⑨ 保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	6	9	18	12	機会はないが、必要性も感じない。	スタジオでの活動としては需要が高くない。
	⑩ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	44	0	1	0	十分に説明されている。資料を頂いている。規約が変わった際にも説明を受けた。	契約時や変更があった際は丁寧に説明を行っていく。また、必要に応じて受給者証の記載内容についての説明も行っていく。
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援の説明がなされたか。	44	0	1	0	説明の時間が短い。質問にも答えてもらっている。	支援計画の要望を聞く時間や説明をする時間をしっかりと設けるよう検討する。また、個室が空いている時には個室でお話ができるように配慮する。
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)行われているか。	10	10	14	11	ペアレントトレーニングを知りたい。家庭での取り組みでアドバイスを頂いている。	プログラムとしてペアレントトレーニングは行っていないが、需要に応じて今後の検討課題としたい。引き続き、保護者とのコミュニケーションは積極的に取っていく。
	⑬ 日頃から子供の状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていくか。	34	9	1	1	毎回子どもの体調を確認して下さる。フィードバックの時間が短く、相談しづらい。	毎回の療育後のフィードバックの時間に、十分なコミュニケーションが取れるよう努めていく。また、フィードバックの時間以外でも必要に応じて面談等行っていく。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表・児発)

公表:令和2年 3月 1日

事業所名 スタジオそら鷺沼

保護者数(児童数)60名

回収数 45名 割合 70%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
保護者への説明等	⑭ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	23	9	11	2	定期的な面談はない。 面談という形式ではないが、話す機会はある。	フィードバックや支援計画更新の際には最近の様子を聞き、必要に応じて面談日を別で設ける。管理者だけでなく、他の先生も積極的に保護者の方とお話しし、信頼関係を築いていく。
	⑮ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	3	7	19	16	父母の会の活動はないが、必要性も感じない。	保護者会は現在のところ行っていない。需要があれば、今後開催を検討していく。
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	35	4	2	4	相談をするとプログラムに取り入れてくれる。	保護者からの相談や申し入れがあれば、迅速かつ適切に対応できるよう努めていく。
	⑰ 子どもの保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	35	8	0	2	なかなか伝えられない事もある。 個人的な事を話す時には個室に誘導して下さる時もある。	毎回のフィードバックの時間に、十分なコミュニケーションが取れるよう努めていく。また、フィードバックの時間以外でも必要に応じて面談等を行なっていく。
	⑱ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか。	27	8	0	10	そら通信が届く。 メールで情報が送られる。 待合室に貼ってある。	毎月の請求書に同封してそら通信の案内を送っている。スタジオ内ではイベント等のお知らせを掲示している。また、自己評価についても公表を行なう。
	⑲ 個人情報の取り扱いに十分注意されているか。	37	4	0	4	タブレットで他のお子さんの様子が見れてしまう。	契約時にタブレットで他のお子さんを見ないようにお伝えをする。 個人情報について張り出しをするか検討する。
非常時の対応	⑳ 緊急時マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明しているか。また発生を想定した訓練が実施されているか。	35	3	2	5	感染症についての掲示がある。 訓練はない。	各マニュアルに目を通しやすくなるよう、本棚を整理する。
	㉑ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	34	2	5	4	避難訓練は行われている。 避難訓練の際、意思疎通が取れておらず、速やかに迎えに行けなかった。 緊急伝言ダイヤルに電話をしたがメッセージが聞けなかった。	定期的に訓練を行なっているので、保護者の方に周知する。 適切に訓練が行われるよう、全職員が計画を把握しておく。
満足度	㉒ 子どもは通所を楽しみにしているか	39	6	0	0	楽しみに行っている。 時々行き渋りがある。	子どもにとって楽しい場所、保護者の方にとって安心できる場所となるよう、努めていく。
	㉓ 事業所の支援に満足しているか	40	3	1	1	満足している。 鷺沼に放課後デイサービスを作って欲しい。	引き続き、療育の質の向上に努めていく。

この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。